

活動のときの スタッフやボランティアのみなさんへのおねがい

毎回必ず、読んでください。
毎回初めに必ず読んで確認をお願いします。

参加者の皆さんが記入する参加同意書、にボランティアの皆さんも記入し、その内容を確認してください。

一緒に活動して下さる全ての皆様 さまざまなきっかけや、立場で関わって下さる皆様へ心から感謝し、歓迎申し上げます。

あそけんがめざすもの
子ども達のために、今ここで、わたしたちができる最善を目指しています。

贅沢は必要なく、ご縁や、いまあるものを大切にしながら、手間や暇をかけゆっくり、子どもたち一人一人と向き合うことを大切にしています。

「子どもの権利」「子どもたち自身で考え行動すること」
「仲間と共に過ごすこと」

昔子どもだったはずの大人の皆さんにも、
童心に戻って一緒に楽しんでいただき、ご自分のこれまでを振り返り、活動を通じて今一度、
新たな「こども感」やコロナ禍の「子どもたちの課題」について考えていただきたいのです。

戦後、世界でも日本でも子どもたちのマイノリティ化は深刻で、「子どもの環境」は悪化し続けています。
ことに日本は、女性の地位が恐ろしく低いと同様、子どもたちの権利は守られていない。

たとえば
子ども食堂という活動は、みんなで集って、その時その場所で一番旬な美味しいものをいただきます。
若松はおいしいものがいっぱいです。みんなで食べて、みんなで過ごして、みんなで片付けます。

春はたけのこ、四季の果物やお野菜、海からもたらされる海産物、途切れることはありません。
おまけに、それらは、お金では買えないことが多いのです。本当に大切なものは、お金では買えません。
なぜなら、売りに出されていないからです。
ここで子どもたちは、地域の「風土」や季節、生活の知恵や工夫などの「文化」に出逢います。
ここで過ごし、ここであそび、ここでそだつ
このことのみが、故郷への愛着、シビックプライドを育み、やがて故郷に戻る唯一の動機となり得ます。

非営利であり、安心安全な場所であり、そこにいる人々は信頼に値する人であり

子どもたちが多種多様な大人とその向こうにある社会に出会う場所、を創り出す活動です。
子どもたちや若手にとって、活動の中で出会うみなさんの自然体の姿そのものが、「オトナモデル」であり、目標や発見、あるいは、不安のもとになりえることを、自覚してください。
守秘義務があり、活動中の撮影は一切禁止、スマホの使用も最低限でお願いします。SNS投稿禁止。

同時に、大人の私たちも、日々刻々と育つ子どもたちの今に出会うことができ、共に育つことができます。
おまけにここにもたらされる食品や支援、出会いの背景には根深い社会課題と解決の道筋が見て取れます。

全員参加費を払って、活動します。(学生は除く。寄付も歓迎です)
持続可能な活動のためにそれぞれが持ち寄れるものを、持ち寄ります。
子ども食堂「あーぶくたつた」は、「みんなで団欒する、第三の食卓です」
学校でも職場でも、家でもない、どこでもない、そのままそこにみんな居ていい場所

あそけんスタッフは、日々現場で活動し、気づきとまなびを深め、自分で会費を支払い、保険に加入し、さまざまな研修を受け、資格をとりながら今日の前にいる子どもたちと活動しています。
あそけんのやくそく **ちいさいこにはやさしくします。みんなでかつどうします。**
みんなのためにできることをさがしてします。あいさつをします。